

## 第2次ちば文化振興計画について (令和元年度実施報告(総括))

### <基本的な考え方>

「第2次ちば文化振興計画」では、基本目標、5つの施策の柱、20の施策の展開及び指標を次のとおり定めています。

基本目標	施策の柱	施策の展開
ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティの醸成でつくる心豊かな県民生活と活力ある千葉県	1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり ～あらゆる人々が文化芸術を享受するために～	① 県民の自主的な文化芸術活動の促進 ② 様々な場における文化芸術にふれ親しむ機会の提供 ③ 子どもたちの文化芸術活動の充実 ④ 高齢者・障害者等の文化芸術活動の充実
	2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり ～あらゆる地域で地域文化が息づくために～	⑤ 伝統文化にふれる機会の提供 ⑥ 伝統文化の保存・継承、担い手の育成 ⑦ 文化財の保存整備の支援 ⑧ 文化的景観等の保全・活用 ⑨ 文化資源の活用と地域の活性化
	3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出 ～多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信するために～	⑩ 多様な文化の発展 ⑪ 「ちば文化」の魅力の発掘と情報の収集・提供 ⑫ 「ちば文化」の魅力を発信する文化事業の充実
	4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築 ～「ちば文化」を支えるひとを育て、つなぐために～	⑬ 「ちば文化」を担うひとづくりの推進 ⑭ 文化のネットワークの構築 ⑮ 多様な支援体制の構築 ⑯ 文化発信拠点としての文化施設等の機能の充実
	5 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上 ～更なる発展に向けて～	⑰ 新しい文化と古くからの文化が織りなす「ちば文化」の世界への発信 ⑱ 障害者、高齢者、青少年、外国人等、国内外のあらゆる人々が参加・交流できる機会の創出 ⑲ 観光等様々な分野との連携による文化資源の活用 ⑳ 文化プログラム関連イベントの実施により得られた資源の活用

指標	現状 (平成26年度)	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	目標 (令和2年度)
この1年間に文化芸術にふれた県民の割合	65.4%	63.4%	59.1%	59.9%	<b>67.4%</b>	70.0%

## ＜柱ごとの施策の展開＞

### 1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり ～あらゆる人々が文化芸術を享受するために～

#### ＜県の取組＞

実施状況、成果
<p>県民・関係団体・市町村などと連携して、「千葉・県民芸術祭」を31事業、「さわやからば県民プラザ事業」では、コンサートや東葛飾文化祭等を実施し、県民による自主的な文化芸術活動への参加の機会を提供しました。また「県民芸術劇場公演」を県内ホール・私立学校等で32公演行ったほか、美術館や博物館では千葉県の歴史・美術・自然に関する展覧会を行い、文化芸術にふれ親しめる環境をつくりました。</p> <p>さらに、児童・生徒が取り組む「千葉県歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」、「千葉県環境月間ポスター」等の各種ポスターコンクール、特別支援学校にプロのオーケストラを派遣する「特別支援学校巡回コンサート」、障害のある方が音楽や演劇等の発表を行う「さわやか芸能発表会」、高齢者の社会活動を支援する生涯大学校における文化講座等、あらゆる人が、県内各地の様々な分野において文化芸術にふれ親しむ機会を提供しました。</p>
課題、今後の方向性
<p>より多くの県民が文化芸術にふれ親しむためには、展覧会・コンサートの内容を県民の関心が高い分野や本県の魅力が図れる分野にすること、事業について効果的な情報発信を行うことが必要です。また、新規団体と連携し文化事業を行うことで、新たに文化芸術にふれる県民も増えてくると予想されます。</p> <p>県民が主体的に文化芸術活動に取り組むために、県主催の事業だけではなく文化団体が自発的に運営を行えるよう支援することや、企画立案時から積極的に県民が参加できる体制づくりなどを検討することが重要です。</p> <p>ただし、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、文化芸術活動においても適切な感染防止対策や実施形態の見直しが必要となっています。文化団体に対しては、新型コロナウイルス感染症に関連した県方針・国支援制度等の周知を適切に行い、活動の継続を支援していくことが重要です。</p> <p>これらを踏まえながら、今後も、文化芸術活動を行う人々の自主性や創造性が十分尊重されるとともに、いつでも、どこでも、誰もが等しく文化芸術にふれ親しみ、鑑賞し、参加し、創造することができるような機会を提供していきます。</p>

#### ＜計画の成果指標＞

目標項目	現状（平成22年度）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標（令和2年度）
文化会館・美術館・博物館の入館者数	約3,300,000人	3,499,748人	4,048,532人	4,266,706人	<b>3,360,688人</b>	増加を目指す
<p>新型コロナウイルス感染症・台風等に伴う休館の影響により、入館者数が減少したと想定されます。</p> <p>【参考】新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響：調査報告(令和2年3月16日、公益社団法人全国公立文化施設協会)</p> <p>【参考】文化施設(博物館)運営調査(台風15号・台風19号・新型コロナウイルス感染症の影響による休館)</p>						
学校における文化芸術活動の取組事例	（【参考】市町村文化振興施策等に関する調査）					
<p>○「障害のある方」が文化芸術にふれる機会を創出することを主な目的とした事業 特別支援学校・福祉施設等と連携して公募を行い、作品展・発表会を実施する事業が多く行われました。</p> <p>○「外国人の方」が本県の文化芸術にふれる機会を創出すること、または、「国際交流」を主な目的とした事業 海外からの高校生・青少年の受入れや、海外に子どもを派遣する事業が多く実施されました。在留外国人・留学生との交流事業や、外国人の方も楽しめるイベントも多く実施されました。</p> <p>○「子ども・若者」が文化芸術にふれる機会を創出することを主な目的とした事業 学校への派遣によるコンサート・伝統芸能体験等、コンサート等への学生招待、親子で楽しめる鑑賞会、子どもを対象として公募する音楽発表会・作品展等が多く行われました。</p>						

## 2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり ～あらゆる地域で地域文化が息づくために～

### <県の取組>

実施状況、成果
<p>本県の貴重な財産として次世代へと継承していくために、伝統文化や文化財の保存事業である「文化財保存整備助成事業」として、台風15号等で被災した文化財の災害復旧を含め、国指定文化財21件・県指定文化財28件の保存修理、県指定無形民俗文化財継承団体2件等への助成を行ったほか、「埋蔵文化財緊急調査助成」として24市町に対する発掘調査等の助成などを実施しました。</p> <p>また、伝統芸能にふれる機会を提供するため、県内の民俗芸能を紹介する「房総の郷土芸能」、房総のむらにおける伝統文化等の体験事業、小・中学校へ能楽や雅楽、三曲の実演家を派遣し体験を通しながら伝統文化を学ぶ「ふれあい体験事業」を行いました。</p> <p>地域文化の活用の取組としては、文化資源の情報をホームページで掲載し、映画等のロケーション誘致により地域の知名度向上や観客の誘致等を図る「千葉県フィルムコミッション運営事業」や、「日本遺産 北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」について、情報発信や人材育成を行い国内外へ効果的に情報発信する「日本遺産魅力発信推進事業」等を実施しました。「日本遺産魅力発信推進事業」では、ロゴマークの公募・一般投票を実施し、事業の更なる周知が図られました。</p>
課題、今後の方向性
<p>伝統文化や文化財の保存・継承、担い手の継承を考える上で大切なことは、県民が伝統文化への関心を大きく持つことです。</p> <p>そのためには、国指定・県指定文化財の活用を目的とした整備を行っていくことで、文化財の魅力をより多くの人々に周知することが必要です。地震や台風等の風水害による文化財の毀損も頻発しており、災害への対策も課題となっています。</p> <p>また、テーマや内容、実施形態等を工夫しながら、より多くの県民に対して伝統文化にふれる機会を提供することも必要です。実施形態等の検討に当たっては、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえたうえで検討していくことが重要です。</p> <p>さらに、地域文化活用に向け、引き続きこれらの文化資源をまちづくりや観光、産業振興等に絡めながら活用していきます。</p> <p>このような取組により、地域の伝統文化や文化財に対する関心が増えることにより、県民の郷土愛が生まれ、より保存や継承が進んでいきます。</p>

### <計画の成果指標>

目標項目	現状(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標(令和2年度)
県立文化会館・美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数	約3,500人	4,473人	6,001人	7,374人	<b>7,862人</b>	増加を目指す
<p>県立文化会館では、伝統芸能体験を集中して実施する期間を延長したことなどにより、微増しています。美術館・博物館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のために2月中旬以降の事業を中止としましたが、それ以前に前年を上回る事業数を実施したことにより微増しています。</p>						
市町村等における文化資源を活用した取組事例	(【参考】市町村文化振興施策等に関する調査)					
<p>○「観光・地域産業等の様々な分野」と連携した事業</p> <p>文化財の一般公開・ガイド、文化財を会場とした催し(コンサート・茶会・田植え等)、文化資源を紹介するパンフレットの作成等の事業で多く実施されました。そのほか、文化財を巡るツアー・ウォーキング、民間団体が管理する文化資源の整備助成等も実施されました。</p>						

### 3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出 ～多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信するために～

#### <県の取組>

実施状況、成果
<p>千葉県民としての意識を醸成し、県民が千葉県に対する愛着や誇りを一層感じられるよう、6月15日の県民の日を中心に、県全体の魅力を網羅したイベントとして「県民のちばワクワクフェスタ2019」を開催するとともに、地域振興事務所のある10地域及び千葉・市原地域の合計11地域で県民の日実行委員会を組織し、地域の特色を活かした事業を行い、千葉の特産品・文化体験コーナー等により参加者にちば文化の魅力を発信しました。また、県・市町村及び各種団体等に県民の日賛同行事の実施を呼びかけた結果、令和元年度は321件の施設の無料開放や記念イベントなどが実施され、パンフレットや千葉県ホームページ、県民だより等で広報を行いました。</p> <p>新潟県で行われた国民文化祭へ県内8つの文化団体を派遣し、県外へのちば文化の発信も行いました。県のホームページ内の「ちば文化交流ボックス」では、千葉県の文化資源やイベント情報を随時更新し、発信しました。</p> <p>また、「若者の文化芸術活動育成支援事業」では、若者が主体となって参加して実施する発表・公開事業・参加体験事業を対象として、6団体に補助金を交付しました。</p>
課題、今後の方向性
<p>ちば文化の発信については、県民の日行事の開催・周知や国民文化祭への派遣を継続的に行うこと、インターネットを活用した広報活動を行うことで、発信力を高めていきます。発信力のさらなる向上のため、発信する情報の精査、積極的な広報の実施のほか、新規団体の参画を促すことが必要です。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、県民の日事業等の開催については適切な感染防止対策や実施形態の見直しが必要となっており、インターネットを活用した情報発信においては、新型コロナウイルス感染症関連支援情報等の情報提供も大切です。</p> <p>また、「若者の文化芸術活動育成支援事業」のように補助金を交付して活動を支援することや、若者の活動の成果を発表する場を提供していくことで、多様な文化の発展を支援します。一方、新型コロナウイルス感染症に関連した県方針や国支援制度等の周知を適切に行い、活動の継続を支援していくことも重要です。</p> <p>古くからの文化と、新たな創造活動をどちらも尊重し、国内外へ発信することにより、地域の魅力を再発見するきっかけを提供していきます。</p>

#### <計画の成果指標>

目標項目	現状(過去5年間の平均値)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標(令和2年度)
「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数	約20万件	579,268件	514,130件	731,532件	796,000人	増加を目指す
文化プログラムに関連するコンテンツの増加等により、アクセス件数も増加しています。「ちば文化資産」GUIDE(平成31年3月末発行)のアクセス件数が比較的多くなっています。						
多様な文化や創造活動への市町村等の取組事例	(【参考】市町村文化振興施策等に関する調査)					
<p>○「地域で活動する、アーティスト・文化活動団体」がメインコンテンツに関わっている事業</p> <p>アーティスト・文化活動団体等に発表の場を提供することを目的としたイベント・展示会等が多く開催されました。参加者は、地域にゆかりがあるプロの演奏家・芸術家、アマチュア活動団体、一般公募等がありました。また、会場は文化施設だけでなく、まちなか等も多く、観客についても多様な方が文化にふれる機会の創出も図られていました。その他、各文化活動団体の活動促進のための、会場提供・助成等の取組も実施されました。</p> <p>○「若者による創造的な文化芸術活動への支援」を主な目的とした事業</p> <p>コンサート・ライブ等による発表の場の提供が多く実施されました。コンテスト形式をとり、受賞者に対し、その後の出演機会の提供を行う事業もありました。しかし、事業を企画・実施するための職員・ノウハウ・予算が不足していることを理由として、取組をしていない市町村も多いのが現状です。</p>						

#### 4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築

##### ～「ちば文化」を支えるひとを育て、つなぐために～

###### <県の取組>

実施状況、成果
<p>県内の文化振興を推進していくために、県、市町村、文化芸術団体等の交流や連携を強化しました。県と市町村、文化施設の運営者なども参加した「公立文化施設担当者研修会」では、老朽化する文化施設の長寿命化と改修について講演を行いました。</p> <p>また、文化活動を通してのボランティアを企画している者と、ボランティア活動の受け入れを希望する者とを結びつける手伝いなど、文化芸術活動を支える「文化活動ボランティアネットワーク事業」については、登録件数・利用件数を増やすため、千葉県ホームページをより見やすいように整理し、また、民間ホームページ等と連携して広報したりすることで、登録件数が49件に増えました。</p> <p>県内の文化団体の文化芸術活動を活性化させるために、公演や展覧会等の行事に対して157件の後援名義の使用承認を行いました。</p>
課題、今後の方向性
<p>地域の文化芸術活動を企画・運営していく人材、郷土芸能を担う人材の育成を行うため、それを支えるネットワークづくりを今後も継続して取り組んでいきます。</p> <p>また、新たなつながりや既存の枠にとられない様々なつながりにより、広く関係機関等との連携を図り、情報交換や総合的な文化振興施策の推進につなげます。特に、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、新しい生活様式における事業実施・施設運営の方法等について、情報交換等を積極的に図ることが重要と考えます。</p>

###### <計画の成果指標>

目標項目	現状(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標(令和2年度)
地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合	33.3%	30.2%	30.6%	45.0%	<b>49.2%</b>	50.0%
福祉・観光・産業分野等での文化芸術の活用事例	<p>施策の展開1・2参照。</p> <p>地域文化を積極的に活用している事例が多く挙げられる一方、地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合は一定数にとどまっていることから、他地域の事例を紹介することにより、新たな取組につながるよう、情報提供・共有していきたいと考えています。</p>					

## 5 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上 ～更なる発展に向けて～

### <県の取組>

#### 実施状況、成果

平成 28 年度後半から、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成のため、公認文化オリンピックアードの認証が開始され、競技会場となる開催県として、「千葉・県民音楽祭（県民参加型コンサート）」、「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』PR 事業」及び「ちばアート祭」など、県内の文化芸術活動を牽引するようなシンボリックな事業を実施し、文化的魅力を県内外に発信しました。「ちばアート祭」では、平成 30 年度に選定した「ちば文化資産」を会場や作品のテーマとし、作品を県民から募集し県立美術館等に展示する絵画・写真公募展の他、アートワークショップ、アーティストライブ、デジタルアート作品の展示などを実施しました。

また、オリンピック・パラリンピックに向けた機運を醸成するため、文化プログラムの申請や周知を推進しており、県内市町村が行う文化イベントを側面から支援するため、市町村向けの会議を開き、応援プログラムや beyond2020 プログラム（※）についての周知を行いました。平成 29 年度半ばから、千葉県も beyond2020 プログラムの認証主体となり、公認文化オリンピックアードだけでなく、多様な文化事業が県内外で活性化するように努めたところ、令和元年度は 117 件のプログラムの認証を行いました。

（※）beyond2020（ビヨンドニーゼロニーゼロ）プログラム：2020 年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、共生社会や国際化に繋がるレガシー創出に資する取組を認証し、ロゴマークを付与することで、オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していく文化プログラムの取組。）

#### 課題、今後の方向性

令和 2 年度は、本県が誇る文化資源を活用し、ちばの魅力を国内外へ発信するとともに、国内外のあらゆる人々が参加・交流できる機会を創出するため、関係機関等と連携して、文化プログラム関連イベントを実施していく予定でしたが、大会の開催が令和 3 年度に延期されたこと及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に鑑み、令和 2 年度予定していた事業については、原則として中止することとなりました。令和 3 年度の文化プログラムの実施については、大会の開催状況・新型コロナウイルス感染症の収束状況等を踏まえ、実施内容等を検討してまいります。

市町村の文化プログラムや beyond2020 プログラムの周知については、まだ認知度が低いことから、HP や会議等を通じて県関係部局・市町村・県内文化団体・経済団体等に継続的に周知を行うこと、文化プログラムへの申請を促すことを積極的に行っていくことが大切です。

<計画の成果指標>

目標項目	現状(平成28年度)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標(令和2年度)
千葉県での「公認文化オリ ンピアード」に参加した アーティストの人数(累計)	380人	18,525人	36,341人	<b>53,600人</b>	増加を 目指す

平成28年度は、文化プログラムの本格実施前のため、実施件数も多くありませんでしたが、平成29年度～令和元年度は件数も伸び、大会開催に向けて機運醸成が図られてきていたと考えられます。特に令和元年度は様々な文化プログラムが開催されたことで、本県の文化的魅力が発信され、参加者にも伝えることができたと考えています。

千葉県内での文化プログラムの参加者からの「ちば文化」の魅力についての意見

○令和元年度千葉・県民音楽祭(参加者アンケート抜粋)

- ・勉強がしたいと思ってもオーケストラなんかは特に機会がありませんし、大きなホールで演奏できる機会もありませんので、この企画は本当にありがたいです。今回学んだことを活かし、これからも頑張ります。(一般公募の楽器演奏者)
- ・色々な団体の方と一緒にパブリカやふるさとを歌うことができ良かったです。/しょうがいのある人たちが一生懸命うたったりおどったりしているのを見て、とてもすごいなと思いました。(一般公募の合唱団体)
- ・大きなステージでプロのオーケストラの方々と共演できるという貴重な経験はこれからの子どもたちの成長や活動の中できっと生かされてくるものと信じます。母たちも勇気と笑顔をたくさんいただくことができました。2020年に向けてスポーツだけでなく、文化芸術においても多様性を認め合う・広げる・拓く活動は真の共生社会を目指す意味で重要なことと考えます。今後も共生社会に向けたスポーツ・文化・芸術活動の場を拓いていってほしい。それぞれが主体的に活動できるようになってほしい。(一般公募のチャレンジドステージ出演団体)

○ちばアート祭2019(観覧者アンケート抜粋)

- ・千葉県民ですが、知らない場所や文化を知ることができた。千葉で活躍されているアーティストの作品を見ることができた。
- ・様々な世代の作品を見ることができて、千葉県の良さと美しさを再発見できた。
- ・野外の夜のアートというのは普段味わえないので良かった。
- ・デジタルアートに興味があり、動けないくらい楽しかった。惹きつけられた。
- ・子どもがアートに触れる好機になった。
- ・子どもがアートに触れるのは初めてでしたが、とても楽しんでいました。ピコル(屋内デジタルアート作品)を気に入らずずっと夢中になって体験させていただきました。
- ・とても心が温かくなる素晴らしいイベントだと思いました。アートの持つ力はすごいですね。